

## 武漢事務所週刊ニュース (2016. 7. 2-2016. 7. 8)

2016年7月2日

### 上半期武漢不動産は15.29万戸、トータル1585万平方メートルが成約

武漢市不動産管理局のデータによると、上半期、武漢新築住宅の成約数は累計15.29万戸で、去年同期より66%増加、2013年までの数年の成約数を越えた。累計成約面積は1585万平方メートルで、前年比71.9%増加した。昨日、中国指数研究院が対比分析により、武漢の新築成約戸数と面積がいずれも中国第1位と認定した。

中国百都市の価額指数統計によると、値段は6月で武漢住宅サンプル平均価額が1㎡当たり9910元であり、全国ランキング18位だった。去年の2月から、武漢住宅平均価額は17ヶ月連続で上昇し、前年比19.98%増だった。合肥、南京などの都市よりは低いものの、依然として大幅な値上がり続けている。

2016年7月5日

### 天河空港で130.6万人が出入国

今年の上半期、武漢天河国際空港の出国、帰国人数は130.6万人で、前年比43%増加した。6月の出入国旅客数は22.1万人で、前年比50%増えた。湖北空港集团有限公司は今年同空港での出入国の総利用者数は250万人を突破し、華中地区の空港における出入国者数は第1位になると推測した。

武漢天河国際空港は現在56本の国際航路を持ち、武漢から18ヶ国と地区へ直行可能であり、1日の平均航空便は56本と、航路は多く、輸送能力は十分で、海外旅行にはとても便利だという。

2016年7月5日

### 中欧の科学者が手を組んで「龍計画」四期を始めた

昨日、武漢大学で中欧科学者と共同で「龍計画」三期項目を総括し、科技部が欧州空間局と4期合作協議を締結した。「龍計画」とは中欧による地球観測領域での大型国際科学技術協力プロジェクトの事で、今まで12年間で3期の協力任務が完成され、中欧連合研究チームが作られることによって、多くの国際先進レベルの研究成果を獲得している。

武漢大学は積極的に「龍計画」前3期の合作に参加し、その中の新鋭軍となった。李徳仁会員は“中国地形と形変”合作分野の首席科学者である。李徳仁チームがイタリアのファビオ・ラカ研究組と合作し、レーダーリモートセンシング分野で重大な成果を得た。双

方合作の中で武漢大学は研究の起点となり、国内で率先して永久散乱体レーダー干渉測量技術を把握し、短い時間で世界最先端レベルに追いつき、タイムリーに地質調査部門に応用した。

調べによると、「龍計画」4期は大気、農業、都会化など8の分野27項目の協力プロジェクトを含んでおり、期間は4年間。中欧双方の合作内容は世界森林の監視システム、二酸化炭素、リモートセンシング目標ロックと防災及び災害減少など多方向の応用研究にまで広げる。